



幕末の志士 香川敬三



鯉沼伊織埋髪塔 (下伊勢畑鯉沼家墓所)

新選組局長近藤勇と言えば、知らない人はいないでしょう。下伊勢畑(御前山地域)出身の香川敬三は幕府軍の近藤を追捕し、その後処刑に至るまでの過程に関わった人物と言われています。一昨年の大河ドラマでも最終盤に登場しました。

◆蓮田了介―鯉沼伊織

蓮田了介(りょうすけ)のちの香川敬三(けいさん)は天保十(一八三九)年、下伊勢畑の農民蓮田重衛門の三男として生まれました(天保九年または十二年という説もある)。二人の兄善九郎、東三(東蔵とも)はのちに尊王攘夷運動に身を投じ活躍します。二番目の兄東三と敬三は野口の郷校時雍館で学び、翌年から水戸へ

出て藤田東湖の私塾に入り頭角を現していきました。東三は安政三(一八五〇)年のハリス来航に際し、条約の締結を要求するアメリカ側の強行姿勢に憤慨して仲間二名とともにハリス暗殺を企てますが、事前に情報を察知した水戸藩と通報をうけた幕府により捕縛され、安政五年二十二歳の若さで獄死しています。当時は罪人として蓮田家墓地にひっそりと埋葬されていました

が、明治後半になってその思想と行動が再評価され、従五位が贈られ、贈位記念碑も建てられました。

敬三は十五歳のとき上伊勢畑の神官鯉沼綱彦の養子となり、以後は鯉沼伊織を名乗ります。外圧の高まりの中、尊王攘夷運動に傾倒し、幕府から謹慎を命ぜられたこともありましたが、その思想を貫いて幕末の動乱を乗り越えました。水戸藩の内紛では東湖らの指

揮する改革派として活動しました。生家の蓮田家には、保守派の襲撃に遭ったときの生々しい刀傷が柱に残っています。

文久三(一八六三)年、藩主慶篤にしたがって上洛しましたが、藩主が帰郷するのには随伴せず、京都に潜伏していたようです。そこで出会った討幕派の公卿岩倉具視の思想に共感した敬三は、岩倉に仕えるようになります。戊辰戦争では新政府軍の東山道軍大軍監として岩倉具定(具視の子)の補佐役を務めました。ここで甲陽鎮撫隊と激戦となり、近藤勇を降伏させ、土方歳三等を敗走させたと言われています。

◆香川敬三を名乗る

明治に入ると名を香川敬三と改めました。一時廃絶していた公卿の香川家を継いだためと考えられています。明治政府では兵部権大丞、宮内権大丞などを歴任し、明治十四(一八八二)年には皇后に関する一切を取り仕切る役職である皇后宮大夫に任ぜられました。着

実に経歴を積み重ね、宮内省の高官に登りつめた敬三は明治四十年には伯爵の称号を授けられ、死去する直前の大正四年には従一位という高位に叙せられました。

明治四十五年大子町佐貫の花室神社境内に兄東三とともにハリス暗殺計画を目論んだ堀江芳之助の記念碑が建てられることとなりました。その際、敬三は「至誠報国」の篆額を贈り、兄とともに国事に奔走した堀江に敬意を表しています。また郷里伊勢畑地区をはじめ各地の災害被害者への見舞金、出征遺家族の扶助などの寄附も頻繁に行っています。遠く離れた地で高位高官を得ても、郷里への思いは変わるこ

とがなかったようです。死後は東京都の青山墓地に埋葬されましたが、慶応三年、高野山で拳兵する前に自ら残していった頭髪を埋めた埋髪塔は養家鯉沼氏の墓地に現存しています。

※鯉沼國夫・恵美子夫妻、蓮田はや氏、軍司藤雄氏に聞き取り調査等にご協力をいただきました。

(歴史民俗資料館)



諸生派に襲撃された際の刀傷 (下伊勢畑蓮田家)